

平成 26 年 1 月 14 日

## 今年は、天馬かけるがごとく

学長 木元 幸一

あけましておめでとうございます。

皆さん元気にキャンパスに戻られたことと思います。

1 月には学期末試験があり、卒業学年は卒業論文や卒業制作、大学院は研究論文の完成時です。学生時代の最も大事な時期ですので、寒い中風邪などひいて体調を崩さぬようご注意ください。期末試験に合格する。論文・制作を受け取ってもらう。ということの他にさらに重要な課題があります。それは成果のプレゼンテーションです。成果を出すだけでなく、その成果のプレゼンテーションが、我学生時代のクライマックスであるということに心を誓って頑張ってください。

昨年の 12 月 22、23 日と本学保育科の全員参加ミュージカルを拝見しました。今年で 3 回目（3 年目）ですが、今までは自分たちの学生時代をテーマにした創作ミュージカルでしたが、今年はミュージカルとしてのレベルを上げたいという学生の熱意（毎年度高まっているらしい。指導の先生曰く）により、「ドロシーの大冒険（オズの魔法使い）」を上演してくれました。素晴らしい熱演で物語に引き込まれてすっかり感動してしまいました。そして皆さんが何故この物語を選んだのか、とても良くわかったような気がして、演じたミュージカルの出来栄は勿論ですが、皆さんのその気持ちに対して心底からの拍手をいたしました。短大保育科の 2 年間ですから、めちゃくちゃ忙しい中での 120 人以上全員一丸となって、このような晴れの舞台上で自分達を最大限表現できたことは驚きに近いもので、我々にとってはクリスマスプレゼントを頂き、皆さんに感謝したい気持ちです。本当に皆さん 2 年間の想いのこもった立派なプレゼンテーションだったと思います。

卒業研究・卒業制作・大学院の論文等も極めて重要なものです。何かテーマを決めてそのことを探求していくということは、多岐に渡る知識と技術の修得を問われており、それらがあるテーマのもとで今までの授業や教科の垣根を超えて、自分の中で統合し、自分なりに体系化して、組み立てていく作業が必須となってきます。結局、今までに学んだ全てのことが関わってきますので、教室の中で教わり、黒板に書かれたことや教科書に述べられていることを覚えて試験に合格するのとはわけが違います。当然、最後は自分のやったこと、その成果をみんなに説明できてようやく終わることになりますね。こちらも、発表会に際し、自分の成果を自分の言葉で表現し、批判を受けて次の課題を見出すという、晴れの舞台のプレゼンテーション目指して頑張り抜いてください。

学園も、狭山キャンパスの看護学部と子ども学部が 4 月開設に向かって準備し、皆さんの新しい仲間を迎えようとしています。今年の午年に相応しく、共に天馬かけるがごとく素晴らしい飛躍の年となることをお祈りいたします。